

JF日本語教育スタンダードを コースデザインに利用する

—Can-doを取り入れたコースの目標設定—



JAPAN FOUNDATION

2011年度第1回日本語教育巡回研修会

台湾：交流協会

2011年6月4日・5日・6日

国際交流基金 日本語国際センター 古川嘉子

研修会の流れ

1. 背景:

言語教育におけるスタンダード、フレームワーク、枠組み
日本語教育における枠組みを探る動き

2. JF日本語教育スタンダードの概要

3. JFスタンダードの木 — JF日本語教育スタンダードのコミュニケーション観 **ワーク1**

<休憩>

4. 「Can-do」

機能 レベル **ワーク2** 種類 **ワーク3**

利用の実例紹介 「みんなの「Can-do」サイト」

5. まとめ

1. 背景

1. 1

言語教育におけるスタンダード、フレームワーク、
枠組み

1. 2

日本語教育における枠組みを探る動き

1. 1 言語教育におけるスタンダード、フレームワーク、枠組み

国内の言語教育(学校教育)

オーストラリア、“Australian Language Levels Guidelines”
(1988)

アメリカ、“Standards for Foreign Language Learning in the
21st Century”(1999)

韓国、「第七次教育課程」(2002)...

国内の言語教育(移民のための英語教育)

カナダ、“Canadian Language Benchmarks 2000”(2000)

広い地域にわたる言語教育

欧州：“Common European Framework of Reference for
Languages: Learning, teaching, assessment”(2001)

「JF日本語教育スタンダード」(2010)

1.2. 日本語教育における枠組みを探る動き

- ・日本語学習者の増加・多様化
- ・グローバル化した社会での、言葉によるコミュニケーションの重要性の高まり

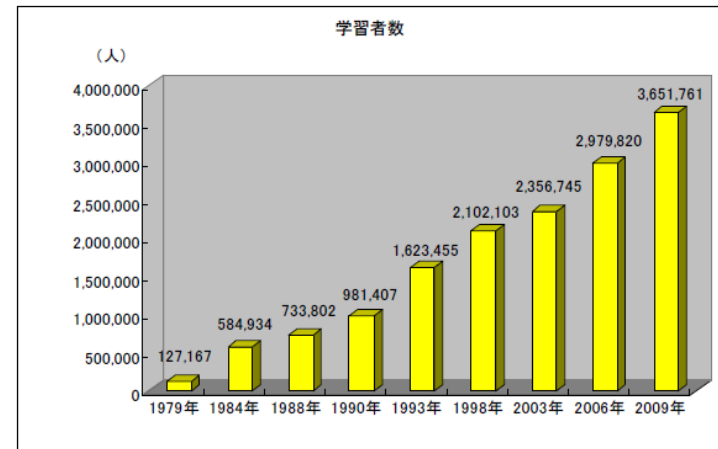
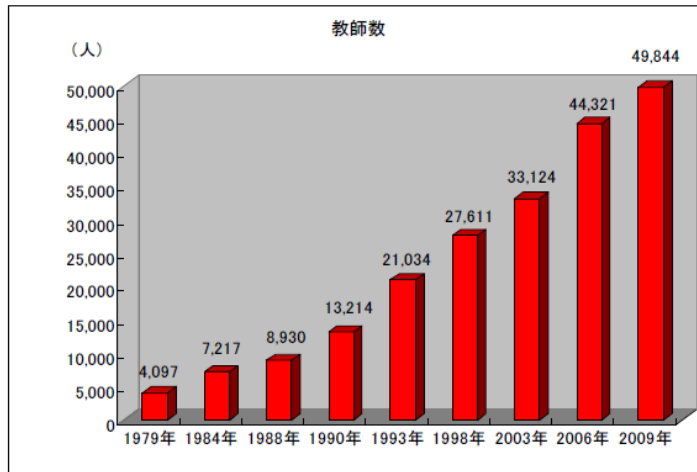
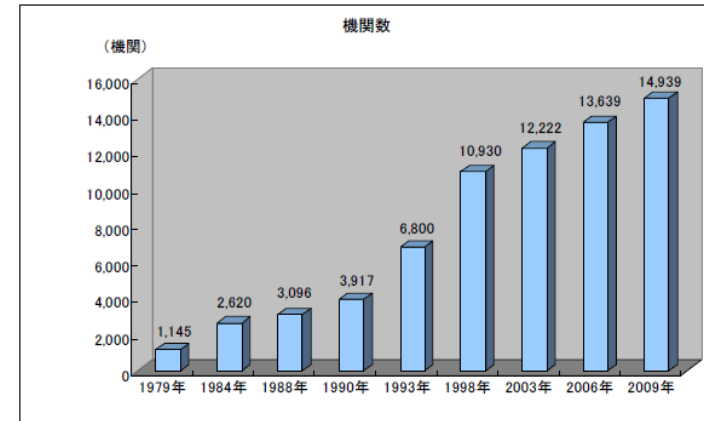
参考:『2009年海外日本語教育機関調査』結果(速報値)

海外の日本語学習者 133 か国・地域の約 365 万人

◎機関数 14,939機関

◎教師数 49,844人

◎学習者数 3,651,761人



2. JF日本語教育スタンダード2010 の概要

2.1.JF日本語教育スタンダードとは

「相互理解のための日本語」を理念とした
日本語の教え方，学び方，学習成果の評価の
し方を考えるためのツール

ツールとして大切なこと

教育現場において，多様な学習者のニーズや
学習環境に応じて柔軟に活用できること

『2010』 p.6

「JF日本語教育スタンダード 2010」

CEFRの言語熟達度の考え方にもとづき、日本語の熟達度を
「～できる」(「Can-do」)という形式の文で示し、
「みんなの「Can-do」サイト」で提供



言語使用の広がり

世界中のどこで日本語を学んでも
今自分が学んでいるレベルがわかる



2.2 JFスタンダードが参考にした ヨーロッパの取り組み

- JFスタンダードは、ヨーロッパの言語教育の基盤であるCEFRの考え方を基礎にしている
- CEFRとは、Common European Framework of Reference for languages: Learning, teaching, assessmentの略で、ヨーロッパの言語教育・学習の場で共有される枠組み
- CEFRは2001年に発表されて以来、ヨーロッパのみならず世界で広く注目され、各言語教育で実際に利用されている
- JFスタンダードを用いることにより、日本語の熟達度をCEFRに準じて知ることができる

2.3.JF日本語教育スタンダードの理念

社会背景

- 価値観が多様化し、人と人との接触や交流が拡大する現代社会における、ことばによるコミュニケーションの重要性の高まり
- 日本語を学習する動機や目的の多様化



世界中で日本語を通じて相互理解をするために
必要な能力

課題遂行能力

日本語を使って何がどのようにできるかという能力

異文化理解能力

他者の文化を理解し尊重する能力

『2010』

p.1
10

2.4.能力の育成と評価のツール 「ポートフォリオ」

JFスタンダードでは、課題遂行能力と異文化理解能力を育成し、その学習成果を評価するためのツールとしてポートフォリオを提案

ポートフォリオは、学習過程を記録し、保存するもの

教師は、現場のニーズや目的に合わせて、3つの要素を組み合わせて、自由にポートフォリオを作ることができる

『2010』p.12～

『ガイドブック』
p.22～

言語的・文化的
体験の記録

評価表



学習の成果